科目名		担当教員	
心理学的支援法Ⅲ		秋田　恭子	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
FF4558	1	R	３年以上
履修登録条件	レポート提出条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。		
生成 AI 利用レベル	レポート　：　B	試験　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目です。2017 年度以前に入学した方は履修登録できません。
※この科目は、レポート提出にあたって条件がありますので、ご注意ください。
※この科目は、専門性の高い科目のため福祉心理学科の方のみ履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

「心理学概論Ａ」「心理学概論Ｂ」「福祉心理学」「発達心理学」「心理学実験ＩＡ」「社会・集団・家族心理学Ａ（社会・集団心理学）」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理的アセスメントⅠ」「心理学的支援法Ⅰ」「心理学的支援法Ⅱ」10 科目の知識を生かし、事例をアセスメントできその上でそれぞれのクライエントにとってどのような「アプローチが望ましいかの感覚を身につける。

■到達目標

１）代表的な心理療法並びにカウンセリングの概念、意義、適応及び限界を述べることができる。
２）プライバシーへの配慮について説明できる。
３）良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を述べることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%+科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」と共通）
末武康弘『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018 年
※「心理学的支援法Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】
レポート提出条件の 10 科目で挙げられている参考図書を参照してください。

レポート学習

■在宅学習８のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	第８章 心理学的主要理論 （その３）	精神分析と精神力動的セラピー（フロイトの理論およびその後の精神分析の自我心理学・対象関係論）	すべての心理療法始まりは、フロイトからです。フロイトの理論を中心にその後精神分析理論を学ぶ。
2	第８章 心理学的主要理論 （その３）	ユング分析心理学・アドラーの個人心理学・新フロイト派精神力動的セラピーの主要な方法	フロイトから離れた人たちの理論および精神力動的セラピーの基本的原則・方法を学ぶ。
3	第９章 心理学的主要理論 （その１）	認知行動療法	認知行動療法アプローチの仕方を学ぶ。
4	第６章 心理学的主要理論 （その１）	パーソンセンターセラピー	パーソンドセンターセラピーの理論及び方法を学ぶ。
5	第７章 心理学的主要理論 （その２）	パーソンセンターセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピー	エンカウンターグループおよびロジャース以後のパーソンセンターを学ぶ。
6	第 10 章 心理学的主要理論 （その２）	３つの心理学的支援法以外の方法	家族療法・ブルーフセラピー・表現芸術療法・交流分析・対人関係療法を学ぶ。
7	第 11 章 心理学的支援法の プロセスと実際	心理学的支援法の実際と留意点②	家族関係者への支援・アウトリーチ・心理教育を学ぶ。
8	第 11 章 心理学的支援法の プロセスと実際	心理学的支援法の実際と留意点②	家族関係者への支援・アウトリーチ・心理教育を学ぶ。

■レポート課題

※レポート提出条件

⑴　「心理学概論Ａ」、「心理学概論Ｂ」、「福祉心理学」、「発達心理学」、「心理学実験ⅠＡ」、「社会・集団・家族心理学Ａ（社会・集団心理学）」、「臨床心理学概論Ⅰ」、「心理的アセスメントⅠ」、「心理学的支援法Ⅰ」、「心理学的支援法Ⅱ」、計 10 科目の単位修得

⑵　卒業要件単位 90 単位以上修得していること

1 単位め	Ａさんは、30 歳の会社員の男性です。家族は、会社員の父（面接の時点では死去）、専業主婦の母、本人、弟２人です。Ａさんは、小さいころからほとんど泣かない子で、だれとでも、仲良くできる、明るい子どもでした。兄弟からも親から頼りにされていました。野球が大好きでお父さんとよく球場に行っていました。学校の成績は優秀で、先生からの評判も良い生徒でした。ただ、小学校４年生の時に父親と進学のことで意見が合わず、一時不登校になりました。その際に担任から勧められたが、スクールカウンセラーの所には親子共々来室したいという希望はありませんでした。不登校をきっかけに父親とは、何となく疎遠になりました。中学は両親の強い希望もあり、本人の希望するところではない中高一貫の男子校の進学校に進み、部活はバスケットボール部に所属し、主将も務めました。高校では生徒会長にもなりました。希望の大学に入学し、父親と同じような一流企業に入社しましたが、28 歳の時に役職についていた父親が突然亡くなりました。その時は涙も見せずに落ち込んでいる母に代わり葬式を仕切り、立派な葬儀となりました。また、最近結婚が決まり、母親と同居するかそれとも新婚夫婦２人で住むかということで少し困っていました。会社では本人にとっては苦手とするタイプの上司でしたが、上司からは信頼もあつくプロジェクトリーダーを任されることになりました。このプロジェクトに成功すれば昇進の道が約束されているとのことでした。その矢先に、会社に行く電車の中で心臓が締め付けられるような痛みを感じて、どうしても会社に行けなくなりました。そこでしばらく自宅で療養することになりました。総合病院の内科に受診しましたが心臓の検査結果に異常はなく、内科医からは精神科を勧められました。同じ病院の精神科では、不安に対する薬の処方をされましたが、不安となることについては、なかなか特定できず、医師より病院内の心理士（師）を紹介されてきました。なお、薬の処方もあるので先の精神科医はこのまま主治医としてかかわっていくことになりました。 Ａさんの上記の情報からＡさんについて、心理士（師）の立場からアセスメントしてください。その際に、まずは、概括的情報からのアセスメントをおこない、つぎに、①から③の観点＜①認知行動的観点②精神力動的観点③パーソンセンタード／ヒューマニスティックな観点＞のうちの１つを選んでその観点からアセスメントしてください。どの観点からのものかを必ず書いてください。そのあとに、その療法からの面接において、どのように進めていき、またどのような留意点が必要かを述べてください。また、アセスメントの段階でもし、心理検査を行うとしたら何を知るためにどんな検査を行う必要があるのかを書いてください。 ※課題文をレポートに記入する必要はありません。解答のみを記入してください。 ※解答文の最後に、文字数を記入してください（ワードを使用している方は、左下に合計文字数が表示されます）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書のｐ.155～157 の実践への示唆 11.1 を参考にケースフォーミュレーションを行ってください。最初に、概括的情報からアセスメントをしたうえで、それぞれの療法のアセスメントの観点の違いを理解したうえで選んだ観点からアセスメントをしてください。最後に、どのようなことを留意して面接を進めていくのか心理検査は具体的に何をするのかを述べてください。もう少し細かく述べますと、まずは、概括的情報として、このクライエントの年齢から考えての発達課題となることは何でしょうか。来室経路ついてはどう考えますか。生育歴からどんなことが推察されますか。家族との関係はどうでしょうか。そのほかの人との関係はどうでしょうか。次に、それぞれの観点からアセスメントしてください。その際に、その観点の中で何を特に重視するかを明確にして、最後に援助の目標をどのあたりに設定するかを決めてください。このことはクライエントとの合意によりますがひとまずは考えてみてくださ

い。また、面接を進めていくうちになにか気を付けておく必要なことはあるでしょうか。その点も考えて書いてください。もし心理検査をこの人にするとしたらどんな検査を何のためにしたらよいかも具体的に書いてください。

以上の観点をまんべんなく書いていただいたことでレポートを評価します。

科目修了試験

■評価基準

教科書の第 11 章をよく読んで臨んでください。